

# あつぎ郷土博物館NEWS 8月号

企画展 デビュー100年「和田 傳」再発見

—今 <sup>よみがえ</sup> 甦る あつぎの明治・大正・昭和を生きた作家の真実—

詳しくは  
展示室で!

## 野の遺賢・和田傳が語る水罰の話

郷土の作家・和田傳のデビュー100年を記念して開催する「和田傳」展が始まりました。ご覧いただいたでしょうか。

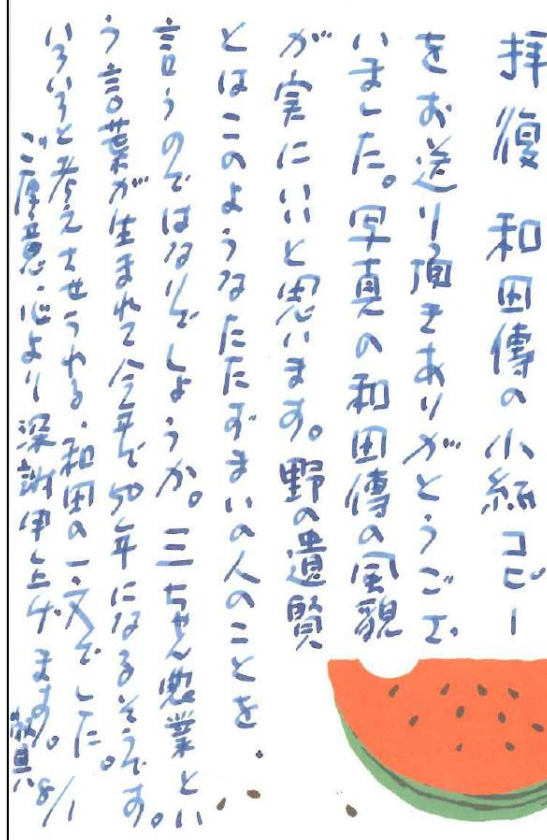
今回ご紹介させていただきますのは、「朝日新聞」天声人語の執筆者の一人、福島申二さんの葉書〈=写真〉。1976年執筆のエッセイ「わびしい平野の老年」が、生前の和田が朝日新聞に登場した最後だったようです。そこでは機械化と高齢者の問題を取り上げ、さらに三ちゃん農業（兼業農家）における農業機械の意味、高齢者と農業の関係だけではなく、家族の連帯という新たな視点も語っています。

それから40年近く経った2013年7月28日、和田が再び取り上げられました。農民の日常生活に共感し、水を大切に使うことの意義が説かれています。福島さんは和田の風貌を「野の遺賢」と表現します。「民間にうずもれている有能な人物」を

指すこの言葉は「書経」からの引用。さすがに記者の方はいい言葉を御存知と感心いたしました。ただ、今は遺賢でもそうではなかった時代もあったのです。

この葉書のあて先は、小島瓊禮さん。同年7月2日の天声人語で、幸田文の「水罰」の話を取りあげた福島さんに、和田の随筆集『草の蔭に』（小学館・1942）収載の「井戸水」、柳田國男の論考「水罰の話」を紹介したことへの礼状です。

「水罰」のことなど、詳しくはホール展示の1コーナーとして関連資料を展示いたしますので、ご自分の目で確認してください。博物館でお待ちしています。



●会期：令和5年9月18日（月・祝）まで ●入館料：無料

\*小島瓊禮さんの講演会は 8月27日（日）14時から [申し込みが必要です](#)

## 文化財保護課(博物館) 8月の予定

日	曜日	行事内容	講師等	時間
		郷土の作家から探る厚木の姿「和田傳展」9/18まで 8月12日(土)、19日(土)、 <b>ギャラリートーク</b> 14時から実施!		
6	日	*書くってたのしい! 夏休み文章教室 (小学生向け)	白坂 洋一(筑波大附属小学校)	① 10:30 ~12:00 ② 13:30 ~15:30
10	木	あつぎの古文書解読会 参加自由	古文書解読会	13:00 ~16:00
11	金	ハエ取り器を作ろう! 先着 25 名	当館学芸員	14:00 ~16:00
13	日	まが玉づくり教室 事前申込 8/4 まで⇒	文化財保護係 * 225-2509	13:00 ~16:00
17	木	あつぎの古文書解読会 参加自由	古文書解読会	13:00 ~16:00
20	日	まが玉づくり教室 事前申込 8/4 まで⇒	文化財保護係 * 225-2509	13:00 ~16:00
24	木	あつぎの古文書学習会 参加自由	古文書解読会	13:00 ~16:00
27	日	*講座「和田傳と民俗 和田の魂を求めて」	小島 瓊禮(琉球大学名誉教授)	14:00 ~16:00
28	月	休 館 日		

⇒ \*の展示関連講座は、事前申込制です。電話(博物館 225-2515)か、市講座予約システムからお申込みください。

事業  
報告

## ●7月8日「博物館の逸品紹介」

博物館の収蔵品の中から、F.ベアト(Felice Beato)の写真帖を紹介しました。ベアトは、幕末・明治期に来日したイタリア生まれのイギリス人撮影家です。ベアト写真帖には、飯山や宮ヶ瀬の風景が写された写真や原町田の町並み、生麦事件が起きた場所など幕末から明治にかけて撮影された貴重な風景写真が46枚収められています。学芸員の解説とともに、収められた写真を鑑賞しました。



- あつぎ郷土博物館 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)  
休 館 日 毎月最終月曜日 年末年始(12/29~1/3)
- 古民家岸邸 開館時間 午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)  
休 館 日 月曜日と火曜日(祝日の場合は翌平日) 12/25~1/3



(申込み・問合せ) あつぎ郷土博物館  
〒243-0206 厚木市下川入1366-4 電話 046-225-2515  
Mail [8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp](mailto:8650-3@city.atsugi.kanagawa.jp) FAX 046-246-3005